公的病院だより（ＪＣＨＯ高岡ふしき病院）

当院における認知症診療

院長（脳神経内科）　高嶋修太郎

2017 年４月に JCHO 高岡ふしき病院に赴任して以来、院長として病院経営に取り組むとともに、脳神経内科医として診療業務を行っています。脳神経内科は、頭痛・めまい・しびれ　などの神経症状や　脳卒中・パーキンソン病・認知症　などの神経疾患を対象とする診療科ですが、高齢化が進む高岡市北部地域では、認知症診療のニーズが特に大きいことを実感し、当初から外来および病棟での認知症診療の拡充に注力してきました。

外来診療では、認知症看護認定看護師とともに、毎週水曜日の午後に予約制で“もの忘れ外来”を開始しました。2018 年には認知症地域包括診療料２（月１回 1,515 点）の施設基準を獲得しました。“もの忘れ外来”では、まず、認知症かどうかを診断し、treatable　dementia を鑑別します。１割程度が、低血糖、ビタミン B12 欠乏症、甲状腺機能低下症、薬剤性、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症などの treatable　dementia を合併しています。アルツハイマー型認知症や前頭側頭葉変性症などの変性疾患による認知症と診断した場合に、認知症治療薬の投与、合併症や BPSD に対する治療を行います。しかしながら、それ以上に、認知症患者にどのように対応するべきか、ケアマネージャーと相談して福祉サービスを如何に利用するかなど、認知症患者を持って困っている家族への対応が、診療時間の大半を占めます。2019 年８月までの初診患者数（図１）は 261 人で、当院の医師からの紹介 51 人、開業医からの紹介 94 人、その他（ケアマネージャーからの勧め、家族が心配して、ホームページや新聞の掲載をみて、自動車の免許更新のため、など）116 人でした。

入院診療においては、当院は認知症ケア加算１の施設基準を取得し、認知症ケアチーム（認知症サポート医、認知症看護認定看護師、社会福祉士、病棟看護師）が週１回認知症ケアラウンドを実施しています。2018 年 10 月から 2019 年９月までの１年間に入院した認知症ケア加算対象者（図２）は 219 人で、アルツハイマー型認知症（AD）および混合型（AD+）が 62％、血管性認知症（VaD）７％、前頭側頭葉変性症（FTLD)15％、正常圧水頭症（NPH）９％、その他が７％でした。これらの認知症の病型別に、対処方法を関係スタッフに説明し、症例毎にケア方針を病棟看護師とともに検討しています。特に前頭側頭葉変性症の患者に対しては、患者の気分を充分に配慮してケアを行うことが肝要であり、このことは病棟スタッフにも浸透し、認知症患者のケアが改善傾向にあります。さらに、入院患者の認知症の進行予防のために院内デイケアを開設しています。

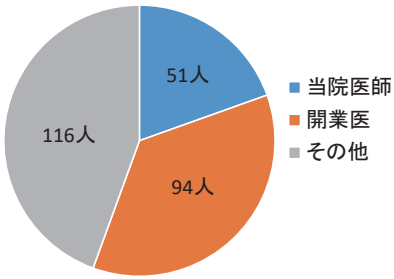

図１：もの忘れ外来初診患者の紹介元
（総数：261人）

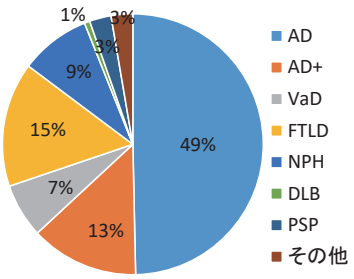

図２：認知症ケア加算対象者の認知症病型